

# 平成 19 年度氷見市行政改革推進市民懇話会・氷見市民病院経営改善検討

## 市民委員会合同会議会議録

- 1 開催期日 平成 20 年 2 月 5 日（火）
- 2 開催場所 氷見市ふれあいスポーツセンター会議室
- 3 会議時間 午後 3 時～午後 5 時
- 4 出席委員 上野隆子、川上修、嶋尾正人、高峯正岡、田中成興、茶谷正清、辻本勉、濱井信、姫野貞夫、前田利寛、前山良夫、森晨朗、森節子、森本太郎、屋敷夕貴、金嶋修(宇枝一弥委員代理)、加藤知道(佐藤泰樹委員代理)、日名田正之、西川宝三(干場隆光委員代理)、大橋昇司、藪田雅彦、垣内哲男、小堀正夫、田中英雄、釣賀節子、池口久美子
- 5 欠席委員 七尾雅周、山岸教男、澤井和一、釜口清、澤武勝弘、嵩尾憲昭、梶義明、積良愚
- 6 金沢医科大学出席者 竹越副理事長、高島理事・病院長、大田理事、木村開設準備室長、宮本総務部副部長
- 7 市出席者 堂故茂(市長)、中田清信(副市長)、前辻秋男(理事)、永田徳一(企画広報室長)、船場健治(総務部長)、丸山隆司(市民病院事務局長)、宮本秀夫(企画広報室次長)、高橋正明(まちづくり推進本部次長)、東海慎一(総務課長)、金谷正和(財務課長)、杉村邦明(情報企画室長)、廣瀬昌人(経営管理課長)、七分由紀雄(総務課主幹)ほか
- 8 傍聴者 市議会議員 11 名、一般市民数名
- 9 案件 (1) 市民病院の公設民営化の経過について  
(2) 金沢医科大学氷見市民病院が目指す医療提供体制等について

### < 協議資料 >

- 資料 1 市民病院の公設民営化の経過について
- 資料 2 地域医療を支える新しい挑戦（竹越副理事長）
- 資料 3 金沢医科大学氷見市民病院の医療機能（高島病院長）

発言内容	
前田会長	<p>ただいまから会議を始めます。委員各位にはご多用のところご出席いただきまことにありがとうございます。本日は市民病院の医療提供体制等につきまして、行政改革推進市民懇話会と市民病院経営改善検討市民委員会の合同の会議を開催いたします。</p> <p>こういう会議につきましては、病院の公設民営化について病院経営改善検討委員会が9月に、そして行政改革推進市民懇話会が7月に開催されまして、委員の皆様いろいろなご意見をいただき、それをもとに逐次、準備を進めてきていただいたところでございます。その間、いろいろありましたが、関係者のご努力によりまして、順調に準備が進んでいるというふうに伺っております、まことに喜ばしい限りでございます。</p> <p>なにぶん私どもが一番の望んでおりますことは、お医者さんをはじめ看護師さん、あるいは医療に携わる皆さん方が今までのわだかまりを全部水に流して、そして市民の健康、医療を守るという重大な責務を自覚して、職員一同、一丸となって今まで以上の市民病院になるように努力していただきたいと思っています。</p> <p>今日は、金沢医科大の方から、竹越副理事長、高島病院長にもおいでいただいておりますので、十分にご議論いただき、身のある会議といたしたいと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、市長さん、ごあいさつをお願いいたします。</p>
堂故市長	<p>本日も寒い日になりましたが、行政改革推進市民懇話会と市民病院経営改善検討市民委員会の合同の会議を開催させていただきましたところ、委員の皆様には大変、何かとご多忙の中、ご出席をいただきまことにありがとうございます。また、昨年来、委員各位におかれましては、市の置かれている立場をご理解のうえ、市民病院の公設民営化につきましてご協力をいただいてまいりました。改めて御礼を申し上げます。</p> <p>また、本日の会議は公開ということでございまして、議員各位にもご出席いただきました。また、この模様は市民の皆様にはケーブルテレビを通じて報道させていただきたいと考えております。</p> <p>それから今日は会長からもご紹介ありましたように、金沢医科大からも竹越副理事長、高島病院長はじめとする皆さんにもお越しをいただいております。ありがとうございます。</p> <p>市民病院が今の現状のままいくとすれば、病院はもちろん、市も立ち行かなくなるという見通しのなかで、市民病院を存続させ、病院職員の雇用を守るには、公設民営化しかないと判断いたしました。その後、議会の議決をいただき、金沢医科大学を指定管理者とする管理運営へ移行することになりました。</p> <p>移行に当たり、マンパワーの確保が課題でありましたが、医師については金沢医科大学で新たに22人の医師を確保していただくとともに、三大学連携の上に立ち、引き続き勤務していただく医師と合わせ、36人体制でスタートする予定であります。また、看護師と医療技術員については、労働組合と100回を超える交渉の中でも身分の問題について、合意が得られなかつ</p>

たことなどから2次に渡る職員募集が行われましたが、1月28日の2次募集締め切りの前になりまして、これについては労働組合の判断もあったと思いますが、一人一人の病院の職員の皆さん、大方の職員の皆さんの自らの意思で金沢医科大学の再就職に応募してくれました。

公設民営化によって、市民の医療を守り、職員の雇用も守るという考えにご理解をいただき、応募してくれた職員の皆さんに心から感謝申し上げます。また、これまで氷見の医療を支えていただいている医師の皆さんにも心から感謝申し上げたいと思います。

金沢医科大学におかれましては、20診療科の維持とともに、常勤医のいない泌尿器科などについても医師を確保していただくほか、高齢医学科や総合診療科の開設やがんセンター、ハートセンターの設置にも取り組んでいただける予定であります。さらには、市民病院には大学の高島病院長自ら赴任していただくなど、ベテラン医師を配置していただけると聞いており、市民の皆さんには充実した医療サービスを安心して受けただけにとともに、市外からも患者さんを迎え入れることができる体制が整うものと思っております。

今後は、市民病院の4月スタートに向けまして、金沢医科大学と綿密に連携をとりながら、金沢医科大学氷見市民病院へのスムーズな移行に努めてまいりたいと思います。

このたびの病院改革は、全国でもまれに見る大改革であります。しかしながら、氷見市の財政の状況は、この病院改革を行ってもなお、国による地方交付税の減額や過去の借入金の返済がピークを向かえることなどから、集中改革プランが目指す歳入歳出のバランスのとれた持続可能な行政体への見通しが依然として厳しい状況にあります。今後とも市民懇話会の委員の皆様には本市の行財政改革の推進について、引き続きご提言、ご意見などを頂戴するとともに、更なるご支援をいただきますようお願い申し上げます。

本日の会議では、公設民営化のこれまでの経過と金沢医科大学氷見市民病院の目指す医療体制についてご説明させていただきたいと思っております。その後委員の皆様から率直なご意見やご提案をお聞かせいただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

前田会長

会議に入ります前に、委員の交代がございましたので、ご紹介申し上げます。市民懇話会と市民病院の両方の委員をお願いしております氷見青年会議所理事長の瀧井信さんでございます。

それでは会議に入りますが、会議時間はだいたい2時間程度を予定しております。まあ人の数ほど異なった見解もあるようではございますが、できるだけ多くの人のご意見を拝聴したいと思っております。皆さんの発言はだいたい一人5分ぐらいになりますけれど、議事進行にご協力いただきたいと思います。

まず、市民病院の公設民営化のこれまでの経過につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

高橋まちづくり  
推進本部次長

(資料1の説明)

前田会長

それでは次に、金沢医科大学氷見市民病院が目指す医療提供体制等につき

---

まして、金沢医科大学から説明をお願いいたします。

竹越副理事長

金沢医科大学の竹越でございます。今日は氷見の方、そうそうたるメンバーのなかでお話しさせていただけることに非常に光栄に存じております。

いろんなマスコミ関係で、皆さんだいたいご存知かと思えますけど、やはり今後ひとつ、きちっとしたことをお話しさせていただかないとということでもよろしくをお願いいたします。

まあ余談になりますけれど、昔から私、個人的には氷見の方と非常に交流がありまして、金沢大学から金沢医科大学に移ったんですけども、35年ほど前から、距離的にも近いせいか氷見の方々の診療をするチャンスが非常に多くございまして、まあ市長さんはじめ政財界の方々と非常に知己を親しく交流させていただいておりまして、これも何かの縁ということでしょうか。こういう担当になりまして、日々皆さんとお会いしているということで光栄に存じております。また、前の市民病院の院長でした積良先生とは、循環器の先輩でございまして、前医師会長の広瀬先生とも同級生でございまして、親しくさせていただいておりまして、非常に氷見の皆様とは親しくさせていただいており、本当に感謝しております。

これから、こういった題で説明させていただきます。

(資料2の説明)

高島病院長

このたび金沢医科大学氷見市民病院の病院長をご拝命いたしました高島でございます。現在も非常に厳しい病院環境のなかで新しくスタートします病院のかじ取り役を担うことは非常に責任が重く、また気が重いところでございます。病院長に決定しましてからまだ10日足らずと日が浅くて、まだどういう病院をつくっていくべきか、どういう特徴ある病院をつくっていくべきか、今現在、思案中でございます。今、金沢大学、富山大学、そして私どもの大学を含めて三大学の先生方の意見、あるいは今日、お集まりの皆様方の、あるいはたくさんの皆様方のご意見を拝聴しながら、少しでもいい病院づくりを目指し、心を新たにしているところでございます。

私、この病院長の役を引き受けるに当たりまして、私自身の考え方は、氷見市民病院をベースに大学病院の機能をもった新しい病院がこの氷見市に生まれる、つくっていく、そういう感じしております。

そんなわけで、新しい病院は市民病院をベースにしているわけですから、氷見市民の皆様のご医療を責任をもって果たす、それが第一の役割だと考えております。そんなことで、まだ煮詰まったあれではございませんけれども、私なりの考え方を少し述べさせていただいて、責を果たしたいと思います。

(資料3の説明)

前田会長

それでは、ただいまご説明いただきましたことにつきまして、委員の皆さん方からご意見、ご質問をいただきたいと思えます。

池口委員

全て明るい方向に進んでまいりましたこと、安心して新体制に期待したいと思えます。先月の17日に我々、旧女性議会のメンバーが12名ばかりで集まりまして、話し合った結果をこの席で報告させていただきます。

まず第一に、これ以上の赤字が増えないように、女ばかりなので大賛成。

二番目に管理者が代わっても、市民病院の形が残りますので、これも大安心。

それから三番目としまして、これは11日の段階での話なんですけど、1月28日締め切りの契約のサインの締切日だったそうなんですけども、サインしなければ多分、病院を出て、外界に出て、この際、皆さんが、病院職員、全ての職員の皆さんがミソギを受けるべきだという大変厳しい意見が出ました。氷見市民病院が現在のような状況になったのは、先生方ばかりじゃなくて公務員の身分にとらわれた職員の就労態度にも多少問題があったんじゃないかという意見もありました。

それから、最後になりますが、新体制になっても、車に乗れる人はともかく、高岡市民とか厚生連に行かれる方もおいでだと思いますが、氷見市のほとんど30%を超える高齢化の状態でありますから、高齢化の中で地域医療の中核に変わりないと思いますので、これからがんばってほしいと思います。

それから最後になりますが、最近、氷見市で自殺される方が多いんですが、その前段階といえますか、うつ患者さんが大変増えています。また、高齢化に伴って認知症の方も大変多くございまして、施設のベットが空いても、なかなか認知症があるということで入れない人や、グループホームを断られる人が大変多いと聞きますので、新体制の中でのなるべく早い段階で、精神科、っていいですか心療内科の開設をぜひお願いしたいと思います。

竹越副理事長

全て納得できるお話で、あの最後のほうに自殺の問題、認知症の話がされましたけども、今ちょっと詳しく調べさせていただきますけれども、どの程度あるのかも大事ですけども、こちらとしても高齢医学科の先生、そちらの専門でもございまして、高齢のほうでも認知症専門の先生がおりますし、心療内科でももちろん自殺に関わりますし、今のところ、科内に計ったんですけどもぜひまた検討したい。そっちの方面の専門の先生に来ていただこうと、あの精神科がもともとここありませんので、できたら今話聞くと、調べさせていただいて対策も必要かなと

大橋委員

今回の公設民営化について、市当局側と市の職員労働組合、皆さんご存知のとおり、まあ激しい対立が続いておりまして、先月末、ようやくこういった流れが皆さん、承知だと思います。その中で、現状は市職員労働組合をいったん辞めまして、金沢医科大に再就職するという形を取りますが、その中で組織を立ち上げるということに、もしなると、金沢医科大学さんとしては今後どのように対応していかれるのか、どういうふうな気持ちでおられるのか、お聞きしたいと思います。

竹越副理事長

ご質問の趣旨は、この新しい金沢医科大学氷見市民病院に再雇用された方の中で組合を結成すると、まあそういうことですね、具体的には。まあぶっちゃけた話、全く免疫がないので、本院には組合ありませんので、むしろここにいらっしゃる皆さんにお聞きしたいくらいなものなんですけども。

堂故市長

私は、円満に、働く人と病院経営側とうまく機能して、市民医療のいい展開ができ、また働く側も働きやすい、満足して働ける姿があると思うので、しっかり働く人と経営する人で、話し合いの場なり、いろんな形を模索してもらいたいと思います。

姫野委員

先ほど両先生のご説明で非常に期待できるんじゃないかと大変思っております。そこでちょっと、新しい病院についてはどこで建てるとかを一回私も寄って決めたことがございます。そこらへんの問題が今日はっきりご説明がなかったようですが、予算的な問題とか、いつごろからの予定とか、もうちょっと詳しく聞かせていただけたらと思うんですが。

竹越副理事長  
堂故市長

場所はまだ決まっていないとお聞きしていますが。

これは大学と市民の皆さん、議会の皆さんと。以前は市民委員会の皆さんで現場所か海岸かということを含めて、やっぱり市民全体で、病院がなくなるんじゃないかという中で、夢だけは持ち続けたいということで、先行して話を進めさせていただきました。二つの有力な案をもとにして、大学とまた市民の皆さんと議会と真剣に議論してこのスケジュールなり場所なり、しっかりと地に足をつけ、絶対に建設するという前提で話をもう一回しっかり進めさせていただきたいと思っています。

金額についてはできるだけ安い方がいいのでありまして、市の財政状況もありますし、また大学で建設にさしかかれる人的なタイムスケジュール、大学の持っている人的パワーのこともあったりして、スケジュールなり金額なり、しっかりと定めて、機能がまず大事ですけれども、しっかり見定めて市民に公開のうえで進めていきたいと思っています。

釣賀委員

先生方お二方の話を聞かせていただいて、大変安心したんですけど、ただ私としましては気になる点が二つございまして、一つは今、お話にありました建物の話なんです。それに関しましては、確か1月の25日、NHK だと思うんですけど、はっきり覚えていなんですけれども、最初にいただいたこのパワーポイントの最後のほうにあったと思うんですが、一床当たりの建設費とういうことに関連いたしまして、民間の病院ではだいたい平均して1,100万円、ところが公の病院ではその三倍の3,300万円だという数値が出てくるんですよね。え、何でかなと思っていたんですけど、先ほどのご説明では、なるべくそこを抑えてという話で、非常に市民として喜ばしいことだし、安心だなというふうに思いました。

もう一点なんですけども、今まで公のものが運営していたものが指定管理者に移管された時に、病院ではないんですが、あるところなんです、働いている方たちが以前の身分から、要するに公務員の身分から一般の民間の身分になって、仕事の内容は変わらないのに、という思いをお持ちもまま仕事を続けられている。そうしますと当然、モチベーションが下がっていますんで、利用される方との間でいろいろなトラブルが生じているというのが現状でございます。実際、私もそういった場面に行き合わせてありまして、ぜひ氷見の市民病院が新しく民間の方で経営していただくときには、そういったことがなるべくないように、職員の方達の訓練ですね、そういったことを徹底してやっていただけたらなと、そういったことを切に希望しております。

竹越副理事長

今ほどの話は後から、大田理事からしていただきますが、二番目の、ちょっと私、理解できないんですが、民営化になると今まで公務員だった人が民営化、民間人になるとモチベーションが下がるとおっしゃいました。それはどういうことですか。

釣賀委員

私がトラブルを目にしたところでは、給料の部分が見直しがかかりまし

て、以前よりも低く設定されていると。やはりいろいろな処遇の面で、以前、厚い処遇をされていたのがちょっと変わってきた。ということで、まあ多分、ご不満がおありの方がいらっしゃるんだなと。そういうことで、利用される方との間で非常にあの、例えば接遇とかサービスの提供の仕方であったりとかいうことで問題を起こして、そういったことでございます。

竹越副理事長

分かりました。要するに勤労意欲をそぐということですね。それは、市と話して、従来のそういった給料面とそれはまあ補償するということで、それは大丈夫なようにします。おそらく最初からお約束で、職員の方の給料とか補償するということで。

ただ、ひとつやはり新病院ができた暁には、考慮するといえますか、給料面ではちょっと検討課題になりますね。

大田理事

先ほどの建設費の問題ですが、私どもに関しては、いわゆる公共事業の発注単価と民間の工事の積算の単価と全く、実は数字が違いますんで、どうしてもそういうものを基準にして見積もりをお役所さんが作りますんで、それに応じた形で業者さんが見積もりされるということで、どうしても価格が高くなります。基本的には透明性を図るために入札一本でやりますので、後でいわゆる価格をネゴシエーション（交渉）できないという構造になっています。そうしますと、もともと積算単価が高いんですが、それがおのずと業者さんは皆さん、単価をご存知ですから、高い価格でもというような形になります。

ただ、民間の場合では、入札は見積もり入札の形をとったりしますが、いろんな指標を使いますので、後で再度、いろいろ中身のチェックをかけたたり、いろんな形で業者との価格の折衝が別途にできるわけです。そうするといろんな面で単価を引き下げることが十分に可能でございますので、先般のNHKで言っておりました一床当たり1,100万円という数字がまんざらでもないのかなという気がします。

ただ、今日、今の時代に1,100万円のできるかどうかというと、これは時代背景がいろいろあります。このような原油高とか物価の状況によってずいぶん変わりますんで一概には言えませんが、まあ我々としては、ある一定の施設のなかでの単価をもとに基準として、負担が大きくなならないような形でやっていかなければならないと思っています。

当然、建物ですから市も起債を起こして、借金ですから当然、それを返済しなければならぬわけですから、あまり大きな負担は、市の財政から考えてできないだろうと思いますので、当然十分な注意をしながら最安値でできればと進めていかなければと考えています。

小堀委員

今日のご説明をお聞きしまして、病院のことはなかなか、質問せいと言われても何を質問するか分かりにくかったんですが、説明を聞いて、非常に分かりやすかったです。その意味で民営化はもっと早くてもよかったんじゃないかというふうに思いながら聞きました。

指定管理者制度という初めて聞く表現ですけれども、この件についても非常によく分かりました。しいて申し上げれば、今後に残っている大学間の連携という、これはかなり古くて新しいテーマがあるわけでございますので、そういう意味では竹越さんがおっしゃった挑戦の意味は十分にあるんじゃない

かるうかと感じました。時代を拓くと言いますか、新しい道を歩くということにも大学間の連携という問題が横たわっているのかなと感じました。

それから、高島院長さんのお話を聞きまして、市民病院をベースにした全く新しい病院を描きたいと、ここの理念も私ども氷見市民としては非常に分かりやすいと、賛同したいと。だから今日の説明を委員の皆様が聞かれてよく分かったとこういうふうに反応されるんじゃないかなと私は思っております。ありがとうございました。

藪田委員

説明を受けて中身的に、あるいは内容的に満足できるようなレベルというふうに伺いました。

でですね、行政の方から資料1で説明のあった点で、経営状況の問題点を書いてあるんですが、まあ医師の方は確保できたと伺っております。で看護師についてはですね、後から大学の先生の説明の中で二次募集が終って大半は応募有りということで、不足分の公募と書いてありますが、そのへんの看護師さんの対応がどういうふうに進むのかということがまず一点。

収益の悪化というテーマにつきましては、病床が363のところ現在293と。新しい方にいきますと250になると。まあ収容患者数が減るわけでございますね。その反面、外来さんが増えるようなシステムに移るわけですが、そういった病床が減るといったことに関して、氷見市民病院の規模的なことからすれば、それで氷見市民の入院患者の医療を守れるのかなのか。それは当然、大学病院との経営、チームプロジェクトの中で送ったり送られたりというようなことはあると伺っておりますが、地域の診療所、病院との交流もやると。まことにきれいなストーリーになってるわけですが、実際のところ、250で適正なのかどうなのか、その点、お聞かせください。

大田理事

250病床がまず適正化かどうなのかというのは、長委員長の改革委員会でも人口規模からいって250床ぐらいが適当ではなからうかというようなお話がまず出ておりました。現在、私どもも5万5、6千人の人口からいきますと、まあ一般病床としては200から250が適当ではなからうかというふうに考えております。ただ、この場合には当然、関連氷見地区、高岡地区とも含めましての病病連携、病診連携というものをきっちりと整理しながら、その中でいわゆる一般病床を確実に押さえていかないと、なかなか、一般病院としての経営的問題も出てくるだろうと思っております。ただ、これはもちろん、市、こういう地域ですから長い患者さんも短い患者さんもいらっしゃると思いますけども、そういうところは何とかその中でやっていくのが適正ではないかと考えております。

それから、先ほどありました看護師さんの問題であります。先月28日の段階では、ほとんどの方が再雇用という形で応募いただいております。そうしますと、現状の200人前後の入院患者さんがいらっしゃいますが、この患者さんについては、十分な看護ができるような数が概ね確保できたと考えております。さらに一般募集としてはこれから再度、まあ先ほど高島病院長から話がありましたような7対1という看護基準を構築していくためには少し足りません。この足りない状況を何とかすることによって、病院の収入がずいぶん違います。今のざっと数字だけで申し上げますと、10対1から



7対1になることによって、現在の患者数からみますと年間約2億、診療報酬が増えることが予想されます。そうしますと病院の経営そのものがずいぶん変わってまいります。そういうことのために私どもは今後、看護師さんについてはやはり、潜在看護師を含めまして掘り起こしと若い看護師さんの募集に努めていきたいと考えております。

藪田委員

まあ大筋、だいたい分かったんですが、私、以前、お伺いしていたのは医師、看護師が不足して病床が減ったと。ゆえに赤字が大きくなったと。収益が悪化したと、こういうふうに聞いておったんですが、これでいくと250でそこそこの状態では看護師も確保できたと、医師も体制も整ったとなれば、当然、その数字で黒字化と、経営状態は良くなると。それで大丈夫ですか。

大田理事

現在よりも良くなるだろうと思っています。ただこれは、今まで悪くなった原因はドクターが減ったこともありますし、それから外科の力が落ちてまして、診療数そのものが下がってきたという要素もあります。

それから、もう一つ患者さんが、ドクターが減ったことにより高岡方面に患者さん自ら向こうを選んでいるという面もあります。だから、診療体制がしっかりと、医師が揃って安心して診療が受けられると氷見市民の人たちに見られれば、当然、高岡まで行かなくても氷見で治療をちゃんとしてもらえると分かってさえいただければ、また患者さんは当然、氷見の方へ戻っていただけたらと思っています。

辻本委員

今ほど、市長さん、両先生のお話を承り、非常に夢のある話だなというふうに思っております。これも市長さんのご努力と病院側の厚いご支援で新病院ができたということは非常に夢があっていいことだなと思っておりますが、ただ先ほど非常に新体制で夢のある話を聞かせていただいたのでありますが、これは実際、絵に描いたもちにならないように、今後、一生懸命やっていたきたいなと一市民として願っております。粗相のないようよろしくお願いいたします。

森農朗委員

先生方のお話を聞いて本当にいいスタイルになったなと。やっぱり理想的な病院になるのではないかなというすごい期待を抱かせるような。今までどっちかというドクターでありながら経営もしていかななくてはならないと、二足のわらじというか、そういった体制が私らにとっていいのか。医者はいくまでも体を見ていただくドクターであってほしい。あんまり金のことを煩わせるよりも患者オンリーでいてほしい。私ら命をドクターに全て預ける身なので、採算が採れるから採れないからというスタイル、最近、新聞で騒がれている救急車のたらい回しとか、ああいったことがないようになるのではないかなと。お医者さんはあくまでお医者さんであって、私らが信頼を寄せて全てをお願いできる総合病院はもうないんですから、本当にないんですから小さいお子さんを持っておられる方々は本当に困っておられる。夜中にひきつけを起こしてもどこに持っていきようもないと。産婦人科や耳鼻咽喉科もない、市内では開業医の耳鼻咽喉科もない現状なので、本当にプレゼンテーションというか説明をいただいてやっとこれで安心して病気ができるじゃないですけども、安心できるようになったのかなと安心しました。これからもよろしくお願い致します。

近い将来、どこで新しい病院、理想的な病院を造るのかという問題については、まあこれから徐々に検討していったら時間はあるんじゃないかな。まあ私ら市民にとってはなるべく金のかからない、はね返ってくるのは私らの散財でございますから、なるべく市の持っている地面というか、利用できる場所は利用したいんですが、場所的なものは病院はいろいろ条件があると思うので、これだけのモーターゼーションというか、車の駐車場がある程度確保できなければいかんでしょうし、そうかといってあんまり、高層の建物を建てるには海岸はあれかなと思ったり。そこらへんのところはこれから検討していく場があっていいと思うので、今のところホッとしている。市民の1人として発言させていただきました。

田中副会長

お二方のご説明をお聞きしまして、非常にいい病院ができるんじゃないかと非常にうれしく思っております。特に、院長先生の話の中で市民病院というものをベースにして大学病院の機能をつけていくんだという話がありました。非常にうれしく思いました。

36人の先生方の体制になるとお聞きしましたけれども、先生方が氷見市民の方にも、氷見市の地域の中にも呼んでいただきたいなということも思いますし、入院患者との信頼関係ですとか、そういったものも考えていく必要があるんじゃないかなと。体だけでなくお住まいの問題なんですけれども、通勤される方もおられるかもしれないですが、なるべく氷見のほうに住んでいただいて氷見の地域社会の中にも溶け込んでいただくといえますか、そういう相互交流といえますか、もっと一層、市民病院としての市民との信頼関係を作っていくことに効果があるんじゃないかなと。先生方のいろんなご希望もあろうと思えますけれども、そのへんのところも配慮していただければありがたいなと思っております。

大田理事

新しく氷見市民病院に四月から就任される先生方は、大半の先生方は実は、こちらの氷見市の方での生活を想定して考えておられるんで、現在、市民病院として考えております宿舎等について、何戸あるんだという形でご注文がついておりますんで、そのへんのところ、また市民の皆さんにもぜひご協力をいただいて、先生方が安心して住める場所に貸していただくというようなこともまた出てくるかと思しますので、ぜひご協力をお願いしたいと考えております。

加藤委員

今ほど副理事長からお話のあった点、先ほど別の委員からお話のあった点から、勤務を継続される方がかなり大半という感じで、その中でこういった体制で、もしくは気持ちを入れ替えてという部分での話がございましたが、やはり、これは質問というのではなくて、意見なんです。過半数の今、市民病院に勤務している方が新しい病院に移られるというのは皆さん、金沢医科大の方もご承知だとは思いますが、いい面と悪い面とやはりあると思うんです。新しい病院で気持ちを入れ替えて、もしくは新しい患者さんの気持ちに立ってというふうな、やはり今までの市民病院のいろいろな問題点としてあった、そんな意見が先ほどの委員のあれなんじゃないかと思うんです。そんな中でどういうやり方で、もしくはどういうふうにしてその継続して働かれる方の気持ちを引っ張っていくか、変えていくかということにぜひ、あと二ヶ月の間にいろいろ考えていただいて、また金沢医科大としてのお考

えを啓蒙していただいてスタートしていくことに全力を尽くしてがんばって  
いただきたいと思います。

それからもう一点は、先ほど大田理事さんの方から氷見市民病院外科の医  
療体制が弱いというような、そういう分析をされているように伺ったん  
ですが、市民の声として、そういう弱い、例えば私などが聞きますのでは救急搬  
送されるときに市民病院はやめてほしい、高岡まで運んでほしいというぐ  
らまでの声がありまして、それはあまりにも一刻を争うときになんで市民病  
院でというくらいにそれは問題だったんだと思うんですね。ですから、そ  
ういう救急医療の体制、何かあったときに市民病院に行けば確実な治療が救  
急救命ができるという、ぜひ信頼される、また高い高度医療の病院にしてい  
っていただきたいなど、それが市民の皆さんが期待していることであって、  
ぜひがんばっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

大田理事

確かに外科が弱いと非常に困るわけですが、一応、現時点では、今現在お  
られる先生、心臓外科の方が2名、消化器のほうは2名残られる予定になっ  
ています。新たに、現時点では今5名から6名を補強するつもりでございま  
す。

ですから、トータルしまして10人体制くらいで組めると思いますし、救  
急体制は十分に参加していけると思いますし、まあ全て外科の場合は一人  
では当直をやっていまして必ず手術がありますと呼び出し、拘束、スタッ  
プがいなくてできないわけですから。ですから、本院、内輪でもそうなん  
ですけども、必ず外科のスタッフ1人、二人は毎日拘束される形で24時間体  
制を組んでおります。そういう形で氷見においてもそれをやるつもりでおり  
ます。ぜひ高岡に救急搬送されるのがいやだという、ぜひ氷見の市民病院に  
行って欲しいというようなことが患者さんから言ってもらえるような病院に  
したいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

日名田委員

今、横手のコマツさんもいい話をされ、それから労働組合の代表の方も非  
常に忌憚のない意見を出されまして、非常に本当に病院やってほしいの  
か、私は見とってここまで落ちぶれた病院の責任は院長や市長の責任ばかり  
じゃない、従業員の責任もあるんじゃないかということをしっかり考えても  
らいたい。それは組合にある。心を直さんとしてどっだけ新しい道、入っ  
たってだめ。一番先に氷見にこれだけの病院が残るということ、大学が来て  
くれたんだよ。氷見に病院が来たんじゃないんだよ。日本中どこ行ったら  
大学を誘致できたところはないんだよ。それを考えてもう少しやっぱり、人  
間的に心を変えて、そして新しい気持ちで進んで欲しい。そうせんと行く患  
者が一番困る。従業員のところに行ったら、どっちが患者かお客さんなんか  
分からん。お医者さんはまことにいいけれども、看護婦さんの方が、レント  
ゲン技師の方に非常に問題がある。それは私、いつも行っとるからよく分  
かる。やっぱりそういうことをきちっと直して欲しい。皆、今、新しく出直  
すんだから。氷見市も赤字のところから出直すと言うとるし、我々もじゃあ、  
それなりに協力という考え方でみんなしとるんだから。従業員の方々、それ  
からその上部団体はなおさらのこと、そのことを理解してほしい。コマツ  
さんはここにおられてそれなりに正しい言い方をしておられるけども、みな  
もやっぱり考えてほしい。これは一つの大事なことから、これ失敗したら

本当に氷見に病院はなくなる。それを良く考えてやっていただきたいと思う。

前田会長

いろいろご意見が出ておりますけれども、やっぱり公設民営化に切り替えたことというのは、皆様のご意見にありますように、やっぱり公務員がやっているのは非常に難しいと。だから専門の皆様方のノウハウを借りながら経営の、うまく経営をやってもらおうというのが大きな目的だろうと思っております。そういう面では、経営の面で一番問題になるのは先ほど来、皆様のご意見にあったとおり、公務員から民間になるということの気持ちの切り替えだろうと。そういう意味では、例えば現給補償とかいろいろ話がありましたが、本当は私はやっぱり非常に人件費が高いから、今まで病院が一生懸命やってきたという事実がはっきりしているわけですから、経営改革委員会でも述べられておったと思いますけれども、そういう面でやっぱり人件費を削らないとだめだと。従って、病院の職員だけでなしに市の職員も痛みを感じて欲しいという、確かなんか一項目あったはずですけども、そういう意味で、市の皆様方、市長もなんか17%カットやら話を聞きますし、管理職の皆様もいろいろな管理職手当を節約したりして、病院に向けるというようなそうした話もありますけど、やっぱり痛みを全部、味わうという観点からすると、現給補償というのもどうかというふうに私は思います。

病院の職員だけでなしに、私も自治会という仕事の立場からいくと各自治会は非常に、市に何を言っても何もしてくれんという不満が非常にあります。そういう中で、この前の田空の発表にもありましたが、各自治会はそれぞれに知恵と汗を出しながら一生懸命にそういった面を、市の厳しい財政を何とか少しでもという気持ちで一生懸命やるとするそういう自治会ががんばっている実績もあるわけでございますから、そういったことを市全体で痛みを感じるんだという意識で、やっていただかないと先ほど来、両先生の力強い話もあったわけでございますが、市民の協力なくしては絶対そのとおりにはならないと思っておりますので、それぞれの団体、それぞれの地区でそういったことを考えてもらえばというふうに、病院の職員等についてはそういうことで考えていただければと思っております。結束されたという和の力、なんと申しますか、本当にみんな一緒のところを向いて進んでおられたのではないかと、同調行動みたいなものがあつたんでないかと思っておりますので、私は皆さんを信じております。必ず立派にやっていただけるものと思っておりますので、そういった面で期待をしております。

それから、先ほどのお話にもありましたように、民営化が現実になるということで、今回、内科の先生を中心に大きく変わられたと、患者さんは引き続きおられるわけでありまして、お医者さんが変わるという不安が非常に大きくございます。顔見知りでないお医者さんが増えられるという、そういう面で入院されている患者さん、あるいはかかりつけておられた患者さん、それぞれに不安に思っておられます。そういった意味では少しでも早く患者さんの不安をなくしていただくようお願いしたいと思います。

いずれにいたしましても市民挙げて考えておりますのは、安心して命を預けられる病院をつくっていただきたいということでございますので、先ほどお聞きした力強いお話の実現を大いに金沢医科大学にがんばって欲しいと思

いますので、よろしく願いいたします。今日はこのへんで会議を終了したいと思いますが、終わりに市長さんからごあいさつをお願いいたします。

堂故市長

委員の皆さん、長時間どうもありがとうございました。こういう会議をして初めてなんかおだやかに終えられたような気がします。ありがとうございました。

しかし、四月に向けて詰めの作業がいっぱい残っておりますので、金沢医科大学と協力して、四月に市民の皆様に安心して医療体制が提供できるように全力を尽くしていきたいと思っております。また、委員の皆様にご協力申し上げる次第です。

それから、依然として、先ほど冒頭のあいさつで申し上げたとおり、財政が好転したわけではありません。厳しい道のりが続きますが、おかげさまで市を取り巻く環境が、能越道ができた、東海北陸自動車道、7月に全通という大変明るい氷見を取り巻く兆しもありますので、この追い風を利用して企業や民活の力をいただいて今年は攻める年にしたい。市の活力を、持ち味を前面に出して、攻める年にしたい、そんなふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

前田会長

委員の皆様には大変長時間にわたり、いろいろご協議いただきまことにありがとうございました。また議員の皆さん方、傍聴の皆さん方、報道の皆さん方には議事の進行にご協力いただきまことにありがとうございました。本日はこれをもって閉会いたします。どうもありがとうございました。